

会 派 視 察 報 告 書

所 属 会 派	岡谷未来研究室	氏 名	今井浩一
会派視察の名称	埼玉県草加市 「そうかりノベーションまちづくり」これまでとこれから		
日 程	令和6年5月23日(木)		
視 察 都 市 名 等	埼玉県草加市商工課そうかりノベーションまちづくり担当		
視 察 内 容 ・ 感 想 等			

会 派 視 察 報 告 書

【講師】

草加市商工課「そうかりノベーションまちづくり担当

【概要】

- ・草加市の都市経営課題
- ・「そうかりノベーションまちづくり」とは
- ・公民連携まちづくり
- ・担い手を育て、変化のトリガーをまちに放つ
- ・これまでの結果・成果
- ・顔の見える経済循環

【内容】

●草加市の都市経営課題

東京のベッドタウンとして繁栄してきた草加市は、「寝に帰るだけのまち」になってしまった。ほかに「市民間、世代間、市民と学生におけるコミュニティの不足」「公共不動産の利活用必要性」「都市型産業の不足」などの課題があり、これらを解決する方策として、草加市では平成 27 年度から「そうかりノベーションまちづくり」をスタート。

●「そうかりノベーションまちづくり」とは

まちのことをよく知り、まちの方とのつながりや、自分のやりたいことを活かしながら、地域経営課題の解決を目指し、今ある地域資源を活用して、志ある市民によりまちの新たな魅力となるビジネスの創出を通して「ほしい暮らしは自分でつくる」を実践する民間主導のまちづくり。

●公民連携まちづくり

民間のまちづくり会社（家守会社）が主導し、補助金に頼らず、自らの資金で遊休不動産をリノベーションし、再生することで都市型産業の集積を行い、新しいまちのコンテンツ（産業）を生み出し、雇用を創出させる取り組み。

地域が抱える多くの課題を、行政と民間が、それぞれ「志」と「責任・権限」を持ち、適切な役割を分担しながら、両者が対等な立場で連携して解決する地ともに公共サービスの受益を最大化すること。

地域密着型のビジネスの広がりが、地域経済循環につながり、同時に、行政コストの抑制につながる。

●担い手を育て、変化のトリガーをまちに放つ

当初は草加駅東口周辺エリアを対象に取り組みをしてきたが、利活用可能な遊休不動産はほぼゼロに。令和 2 年度には谷塚駅周辺エリアも対象エリアとし、取組みをさらに広く展開している。

リノベーションまちづくりの特徴は以下の 4 つ

1. 収益性が高く、スピードが早い

今あるものを活かし、新しい使い方をしてまちを変える

2. 民間主導の公民連携

リノベーションまちづくりは、民間主導でプロジェクトを興し、行政が支援する

3. 都市・地域経営課題を複合的に解決

遊休不動産という空間資源と地域資源を活用して、民間自立型プロジェクトを興して地域を活性化させる

4. 補助金にできる限り頼らない

経済合理性を追求する

●これまでの結果・成果

→リノベーションスクール

会 派 視 察 報 告 書

→そうかりノベーションまちづくり構想
→そうかりノベーションまちづくり協議会
→企業版リノベーションスクール@そうか

●顔の見える経済循環

●これから

「そうかりノベーションまちづくり構想 2.0」

- ・必要なインフラを整備する
- ・地域の人々の想いをくみとりながら、ビジョンをまとめ、市に都市再生計画を提案する
- ・官民の有休不動産、駅前広場用地、公園、道路を使った事業の創出

【感想】

・「そうかりノベーションまちづくり」により、およそ10ものお店がオープンし、空いている建物がなくなったという。草加は決して小さい街ではないが、街のエッセンスになっている。

・「DIO (Do it ourselves) =ほしい暮らしは私たちでつくる」をミッションに掲げ、2階建ての古いアパートをリノベーションした「シェアアトリエ つなぐば」は、やりたいことと、必要なことが詰まっていて、とても良いと感じた。やりたいことは、地域の人々が利用できるカフェやシェアアトリエ、美容室など。必要なことは、子連れで働けるシェアアトリエと子どもスペースのあるカフェ。ここに設計事務所「つなぐば家守舎」が入っている。いわばそうかりノベーションまちづくりの象徴的な施設と言える。「仕事につながる／母親につながる／地域につながる」の3つを軸に運営しているという。こういう場が岡谷にもつくれないだろうか。準備ができればここから旅立ち、また新しいメンバーが入ってくる。その循環は鳥の巣立ちを思わせる温かみがある。

・異業種の人たちが集まることで、いろいろなアイデアや可能性が生まれたり、想像していなかったようなプロジェクトの誕生につながったりするのだそう。一緒に日々を過ごして、共通の課題を持っているからこそだと感じた。

・草加市では、女性創業スタートアップ事業として『わたしたちの月3万円ビジネス』の講座を実施している。フルタイム労働を前提としない、子育てなどと並行して行うことができる創業の希望を支援するものだ。やりたいことや得意なこと、好きなことから自分らしい仕事を生み出し、地域にアクションする働き方は、決してビッグビジネスではないかもしれないが、自分も周りの人も幸せになる小さなビジネスを一人ひとりが興すことで、地域の暮らしが豊かになり、顔の見える経済循環も生まれる。

この『わたしたちの月3万円ビジネス』が、「そうかりノベーションまちづくり」と両輪になっているのが魅力だ。

・そうかりノベーションまちづくりにおける新たな取組みとして、「企業版リノベーションスクール@そうか」もスタート。参加企業同士がオープンイノベーションの観点を持ちながら連携し、既存事業の再構築や新規事業の創出を図りながら、地域経営課題の解決を目指す事業を検討する。自分たちの価値を表に出せることが大事ではないか。

・これらは、地域密着型ビジネスの創出を図り、まちの中で「顔の見える関係性」を育んでいながら、域内「顔の見える経済循環」の活性化を目指していくことがベースになっている。